

天皇代替わりに関する諸儀式に反対する声明

天皇代替わりに伴い、2019年4月から関連諸儀式が計画され、政府はそれらを、先の天皇代替わりの事例を踏襲して行おうとしています。

私たち日本バプテスト連盟靖国神社問題特別委員会は、かつての天皇即位の諸儀式が、国民主権、政教分離原則に違反すること、また即位後に行われる「大嘗祭」が、天皇を「現人神」(あらひとがみ)にする儀式だとして反対の声明を表明しました(1989年1月10日)。今回の政府が行おうとしている天皇代替わりの諸儀式も、かつて私たちが反対の意を表明したように、国民主権、政教分離原則をないがしろにし、信教の自由を侵害する恐れがあり、改めて反対の意を表明します。

さらに、特定の家系に生まれ、しかも男系にしか皇位継承権がなく、また自由に自分の意思を表現できないようにし、人権を制限して維持されていく天皇制は、法の下での平等に明確に違反し、それはまた他の一人の人権が脅かされる現実をつくり出すことにもつながっていく恐れがあります。また、皇室の重要な伝統行事だとして、政府が公金を支出して行われる大嘗祭は、政府が国民の象徴である天皇を「現人神」(あらひとがみ)とする行事に関わることであり、それがさも当然であるかのように行われることは、信教の自由を侵害し政教分離原則に違反すると共に、天皇を再び超然とした権威を持つ存在として国民を支配ことにつながる恐れすらあります。

私たちは、神が造られた「いのち」がないがしろにされず、すべての「いのち」が尊ばれる平和をこの社会につくり出していくことが私たちキリスト者のなすべき務めなのだと信じています。それゆえ、基本的人権、国民主権が脅かされる恐れのある天皇代替わりの諸儀式に強く反対します。

2018年8月15日

日本バプテスト連盟

靖国神社問題特別委員会